



発委第 4 号

令和 8 年 6 月 2 5 日

丹波篠山市議会議長 上田 英樹 様

提出者	地域医療対策特別委員会	委員長	隅田 雅春	
同	同	副委員長	安井 博幸	
同	同	委員	堀毛 宏章	
同	同	委員	渡辺 拓道	
同	同	委員	降矢 杏奈	
同	同	委員	小畠 政行	
同	同	委員	前田 えり子	
同	同	委員	向井 千尋	

学校法人兵庫医科大学ささやま医療センターに対する感謝決議

上記の議案を別紙のとおり地方自治法第 1 1 2 条及び丹波篠山市議会会議規則第 1 4 条第 3 項の規定により提出する。

(提案理由) 丹波篠山市における地域医療の中核病院として、長年に渡り市民の生命と健康を守るため多大な貢献を果たしていただいた学校法人兵庫医科大学ささやま医療センターに対し、敬意と感謝の意を表するため。

学校法人兵庫医科大学ささやま医療センターに対する感謝決議（案）

学校法人兵庫医科大学は、国立篠山病院から経営移譲を受け、平成9年10月の兵庫医科大学篠山病院の開院以来、今日まで28年9か月の長きにわたり丹波篠山市及び丹波地域における地域医療の中核病院として、市民の生命と健康を守るため多大な貢献を果たしてこられた。

ささやま医療センターでは、超高齢社会を見据えた先進的な地域医療の実践に取り組み、総合診療科を中心とした患者本位の医療体制を構築するとともに、地域包括ケアの推進、人材育成、医療・介護・福祉との連携強化など、地方都市における地域密着型医療のモデルを築いてこられた。

特に、新型コロナウイルス感染症の世界的流行という未曾有の危機に際しては、「丹波方式」と称される先進的な医療介入体制を確立し、地域の医療崩壊を防ぐため昼夜を問わず献身的な努力を続けられた。その果たされた役割は極めて大きく、市民に大きな安心を与えたものである。

このたび、令和8年7月をもって医療法人社団みどり会へ経営が引き継がれることとなったが、学校法人兵庫医科大学及びささやま医療センターが長年にわたり築き上げてこられた地域医療への功績は誠に顕著であり、その歩みは丹波篠山市の歴史に深く刻まれるものである。

よって、丹波篠山市議会は、学校法人兵庫医科大学ささやま医療センターの長年にわたる地域医療への卓越した貢献に対し、市民を代表して深甚なる敬意と感謝の意を表するとともに、これまで同センターの発展と地域医療の充実に尽力されたすべての関係者に対し心から謝意を表する。

以上、決議する。

令和8年6月25日

丹波篠山市議会